

日 帰 り

ふくしま みち さがし

日本で最も美しい村「飯舘」を訪ねる

実施日

2017年 11月18日(土)



旅程表



日時	行程	食事
11 / 18 (土)	福島駅（西口バスターミナル）——— 10:00発 ——— 10:00～10:10 ——— 10:20～11:30 ——— 13:15～14:15	朝 × 昼 ○ 夕 ×
	福島駅（西口バスターミナル）——— 10:00～10:10 ——— 11:45～13:00 ——— 14:45～15:45	
	——— 11:45～13:00 ——— 14:45～15:45	
	——— 17:30頃解散（予定）	

私たちもご一緒させて
いただきます



越智 小枝

医学博士
東京慈恵会医科大学



佐藤 健太

飯舘村出身
飯舘村議会議員

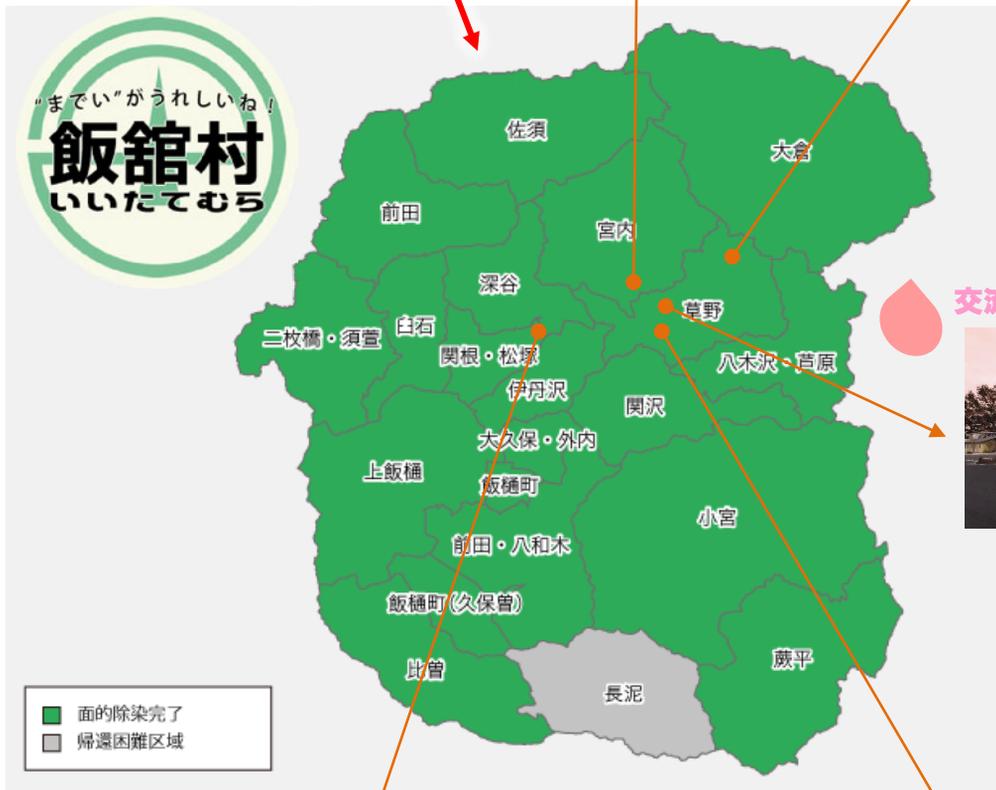
みちさがしマップ



いいたて村の道の駅
「までい館」



菅野元一さん、クニさん



交流センター「ふれ愛館」



高橋 日出夫さん



山田 猛史さん



株式会社 菊池製作所
福島営業所、福島工場



飯舘村ってこんなところ



魅力

飯舘村は、阿武隈山地の北部にある豊かな自然に恵まれた美しい村です。

村の総面積230.13km²の約75%を山林が占めるなだらかな高原で、北に真野川、中央に新田川と飯樋川、南部に比曽川が流れ、その流域に農地が開かれ集落があります。年平均気温は約10度、年間降水量1,300mm前後、高原地帯としての冷涼な気候で、夏はヤマセの影響で冷害となることがあります。

産業では、畜産に力を入れ、黒毛和牛の「飯舘牛」はブランド牛として高い評価を得ていました。また、高冷地の条件を生かした高原野菜、トルコギキョウを始めとする花の栽培、凍み餅、凍み大根、どぶろくなどが特産でした。

手間暇惜みせず、丁寧に、心を込めて、相手を思いやるという“まδει”な生活文化が残っています。

伝統芸能

先土器時代に端を発する古い歴史をもつ「田植え踊り」「獅舞・神楽」等の無形文化財が保存継承されています。なかでも「田植え踊り」は、地区ごとに異なるなど数多く伝承されています。



三匹獅子舞

農作物を荒らす獣を追い払う儀式として始まったとされる。五穀豊穰、悪霊退散を祈って奉納。比曽、草野地区ともに村指定無形民俗文化財。



神楽

宮仲、大火、前田、大倉地区で継承される伝統のある神楽。



田植踊り

小正月に豊作を祈って華やかな踊りを奉納。重要無形民俗文化財。



創作太鼓

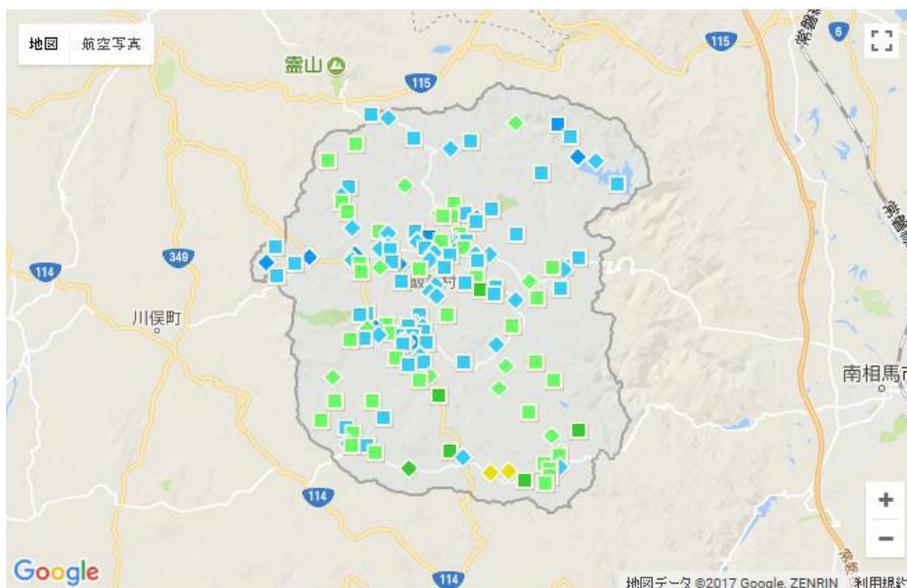
佐須地域の創作太鼓「虎捕太鼓」は、元気と笑顔を与える太鼓。祭りの華として大活躍。

飯舘村のいま



放射線量のいま

飯舘村では、平成29年3月末に計画に基づく面的除染が完了しました。宅地の空間線量率は、除染前に平均値で2.3 μ Sv/hあったものが、除染後には1 μ Sv/hでした。その後、時間の経過とともに空間線量率は低下しています。



■飯舘村 ◆原規委 ●定期測定 ~0.1 ~0.2 ~0.5 ~1.0 ~1.9 ~3.8 ~9.5 ~19.0 19.01~

2017年9月19日 17:00

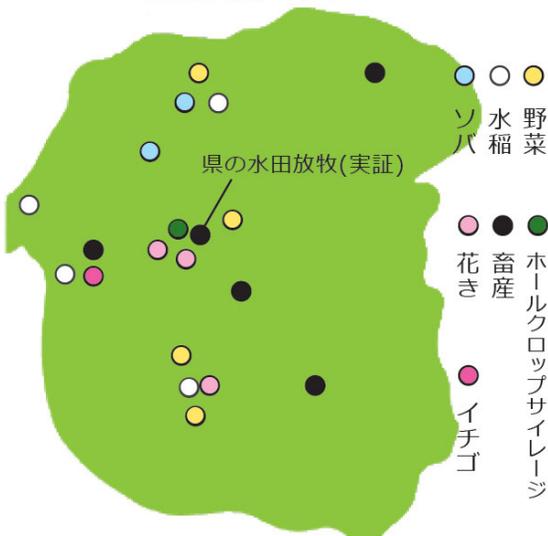
※ 仮置場以外の数値は、日付に関わらず直近の数値を表示しております。

営農再開状況

米、トルコギキョウ、カスミソウ、リンドウ、野菜、繁殖子牛などの生産を再開または再開予定の農家がいらっしゃいます。

今回、お話を伺う山田猛史さんは、関根・松塚地区で、福島県畜産研究所と協働で、今年の5月末から、試験的に牛6頭を以前は水田であった場所に放牧しました。また、複数の地域でソバ栽培を行う計画もあります。

● 営農再開マップ ●



出典：広報いいたて平成29年5月号

菅野元一さん クニさん

一本一本、みんな思い出の木です。

『将来、家の大黒柱にしたい』と約40年前に植え、丹精込めて育ててきた木も、大黒柱として使うことができました。

訪れる人が山野草を眺め、落ち着いた時間を過ごせる空間にしたいです。



かんの もといち
菅野 元一さん



● 家屋を取り囲むように植えられた居久根（いぐね）と呼ばれる屋敷林は、季節風を防ぐなど先祖から受け継いだ大切なものです。

避難生活が長引くにつれ村の自宅はネズミの被害や雨漏りが目立ち、改築を検討していたところ、この屋敷林を使った家の建築を思いつきました。

使用した木は樹皮を剥いだ上で、放射線量を測定して安全性を確認。角材にして壁にした“縦ログ構法”で作りました。使用した木材から受ける放射線も年間0.073msv増える程度と計算し、理解、納得して住んでいます。



菅野 クニさん

2017年3月31日。

飯舘村は一部の地域を除いて避難解除となり、自宅に戻りました。

飯舘の気象条件にあった野菜の改良に取り組みながら馬鈴薯とカボチャ、新しい品種も育てています。



● 2011年3月に農業高校の教師を退職する夫と一緒に、飯舘村の山に自生するナツハゼを研究して飯舘村の特産品にする計画をしておりました。ところが原発事故により、この計画は消えてしまいました。前年の11月から12月にかけて100本余りを山から移植した畑の手入れはできなくなっていました。



避難先の福島市で、原発事故前に収穫したナツハゼを保存していた農家に出会い、いただいたナツハゼでジャムを作りました。応援していただいた方々に送ったところ、商品化を勧められ、「ニコニコ菅野農園」を立ち上げました。今は、飯舘村に帰村し再生に取り組んでいます。

中村美紀さん

CookingStudio I-e 主宰 中村美紀

福島市生まれのA型。郡山市在住。栄養士・ジュニア野菜ソムリエ。ベビーヨガセラピー、骨盤調整ヨガインストラクター。CookingStudio I-eは、来年で10周年。県内ショールーム等で料理教室を担当するほか、自宅のスタジオでヨガを教える。娘3人+息子1人の4人の母。

E-mail : cookingstudioi-e@Hotmail.co.jp



震災前、浜通りの海へ向かう途中の飯舘村の道は、それはワクワク、ドキドキの道のりでした。稲穂がキラキラと揺れ、どの畑もよく手入れされていて本当に美しい田園風景が並んでいたのを覚えています。

中村 美紀さん

先日、久しぶりに飯舘村へ行きました。そこには記憶にある美しいあの飯舘の姿とはちょっと違う光景が広がっていました。黒いフレコンバックの上に青のシートがかぶせられ、除染した後の田んぼや畑には雑草が生えているだけ。あの美しい飯舘村を、人々のまでいな暮らしを、こんな風にしてしまったことに本当に腹が立って、そして震災を経験し、避難も経験したくせに、このことをすっかり忘れていた自分自身に腹が立って腹が立って、徐々に私の中に沸き起こった感情でした。

その日、菅野クニさんにはじめてお会いしました。ザ・おかあちゃん！という言葉がぴったりの豪快でものすごく明るいおかあさん。ご本人に私が感じたことをお伝えしたら、かっかっか、と笑ってこう返ってきました。「住んでる本人はそこまでもう腹も立ちませんよ。だって何にもなくなっちゃったんだもん、新しく作るしかないよね、次の世代の若い人たちのために」

今回、そのクニさんのところのナツハゼを使って、シフォンケーキとナツハゼティーをご提供させていただきます。ぜひ、クニさんのお話を聞きにいらして欲しいと思います。来ないとわからないことがたくさんあるから。



ナツハゼを使ったシフォンケーキ

Natsuhaze

アントシアニンが他のベリー類の約6倍・ナツハゼ

秋に黒い果実が熟すナツハゼは、目の疲労回復や血液浄化作用などに効果があるとされているアントシアニンが他のベリー類の約6倍含まれている。ニコニコ菅野農園の「やまおとこじゃむ(*)」は福島市内で栽培されたナツハゼを使い、放射性物質検査で非検出（検出限界値未満）であることが確認されている。



*飯舘村ではナツハゼのことを“やまおとこ”と呼ぶ



東京都八王子市の機械メーカー・菊池製作所の創業者・菊池功社長の出身地が飯舘村であることから、主力工場の多くが飯舘村にある。原発事故で飯舘村が避難指示区域となった後も、従業員が避難先から工場に通い操業を続けた。

☎960-1801
福島県相馬郡飯舘村草野字向押25-1
TEL 0244-42-0913 (代表)



菊池製作所提供

● 震災後、菊池製作所が力を入れているのは大学の研究者らと連携したロボット開発。2012年11月に川内村に工場を新設し、南相馬工場が本格稼働しています。「南相馬でロボット事業を始めたことで、以前は『地元に残らない』と言っていた人たちも残るようになったんです。今までは東京に出ようとしていた人も、先祖伝来の土地に住みながら仕事ができる。やっぱり、福島の人が地元に残れる環境づくりが重要です」と菊池功社長。



工場に並べられた
マッスルスーツ



世界初「4本の腕を持つ」
災害対応ロボット“Octopus”



ドローン「ミニサーベイヤーMS-06VL」
(2015年2月20日撮影)

Muscle suite®

腰にかかる負担を軽減!! 着用型ロボット・マッスルスーツ®

マッスルスーツ®は、腰をはじめ様々な体の各部位に負担がかかる作業をしやすくする着用型筋力補助装置。軽量で簡単に装備できることから、介護、物流、工場労働、農作業等の幅広い産業において活用が見込まれています。



高橋日出夫さん



避難している時から、飯舘村に戻って、農業をするつもりでした。
自分の好きなこの村で、自分の好きなことをして生きていけることに喜びを感じています。

● 飯舘村が大好きで、避難指示が解除になりいち早く村に戻ってきました。

現在、アルストロメリアやトルコギキョウ、カスミソウを栽培しています。原発事故前から農家でした。村に戻ってすぐに営農が再開できるように、避難先の福島市飯野町で土地を借りて、花の栽培を続けていました。

放射線量に関しては、農地が除染され数値が下がっていて、またやり直しが出来るという気持ちを強く持つことができました。

今は、原発事故前よりも強い思いと情熱で農業に取り組んでいます。



アルストロメリア



トルコギキョウ



カスミソウ



飯舘村のロゴを使って産地名が印刷された出荷箱
東京の大田市場などに出荷している

花は“なりわい”であり“いきがい”です。
花で人を幸せにすること、
それは私たちの幸せでもあるんです。



山田猛史さん

農地の荒廃を防ぎ、牛がいる風景をよみがえらせたいという思いなんです。

もっともっと頑張っ、息子の世代にいい環境の農地を託したいなと思っています。



写真：広報いいたて平成29年7月号より転用

● 原発事故前は、米とタバコ、ブロッコリー栽培、和牛の繁殖を自宅で手掛けていました。飯館村は畜産がさかんで、223戸の農家が和牛を飼っていました。その数は村人口の半分の約3,000頭でしたが、避難により市場で競売に掛けられ、農家の大半の方は身を切られる思いで牛を手放し村を離れました。

避難先の中島村で牛舎を借りて、飯館から連れてきた3頭をもとに畜産をすぐに再開。平成26年秋には福島市飯野町にあった鶏舎を買って牛舎に直し、36頭の牛を飼っています。現在、飯館村で約60ヘクタールの水田を活用して牧草を作っています。北海道並みのできるだけ広い面積の牧野にして牛を放牧し、放射性物質が牧草や牛に移行しないか検査をしながら、本格的な畜産の再開を目指して日々取り組んでいます。



挑戦もしないであきらめたくない。
息子と一緒に、いつかは全国の産地と
競えるような高品質の牛を
飯館で育てるのを目標に、
少しでも希望をつなげていきたい！



放牧試験地とする
水田のあぜを撤去
する山田さん
2016年7月



福島県相馬郡飯館村深谷前12-1
Tel:0244-42-1080



物販・情報スペース

村内だけでなく村と縁がある地域の物産品、工芸品が木製の棚にならびます。ご自宅・贈答用のお土産にいかがでしょうか。道路情報を確認できるタブレットも設置。

までいホール 軽食コーナー

特殊な技術によって飾られた花の下で、国産の豚を使った特製豚丼、こだわりのホークカレーや箱庭うどんなどの食事とデザートを楽しんでいただけます。



ランチタイム
11:00~14:00



美しいステンドグラスのライトが館内某所に設置されています！見つけてみてね♪



公衆トイレとまちあいスペースは24時間利用できます。そして夜はライトアップ!!間接照明がロマンチックです。

施設全体に杉材がふんだんに使われていて温かな雰囲気。ホッとくつろげますよ。



入口には彫刻家・重岡建治氏作のブロンズ像がお出迎え。イチオシの撮影スポットです。

フロアガイド Floor Guide

福島の物産販売のほか「ニコニコ菅野農園」のナツハゼの加工品、高橋日出夫さんのお花など、飯館村の特産品も販売しています！

Character

飯館村公式キャラクター「イイタネちゃん」

人々に幸せのタネをお届けする配達人。村の復興に向けて全力で前向きに取り組んでいる現状を、様々な可能性を秘めたタネ(種)に重ね合わせている。

「イイタテ」「イイタネ」と語呂合わせにもなっている。

